

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 11月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0171501075		
法人名	有限会社 Win北陽		
事業所名	グループホーム 北陽		
所在地	北海道北斗市東前74番地の1 (電話) 0138-77-0037		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月17日	評価確定日	平成21年11月10日

【情報提供票より】 (平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人、非常勤 1人、常勤換算 16.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費等:25,000円	
敷金	有(円)	無	暖房費:5,000円(10~4月)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	73歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みなと内科・脳外科医院、函館共愛会病院、やなせ皮膚科クリニック、よこやま歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム北陽」は、函館駅より北の方向へ2.0Km、大野新道沿いに立地している。周りには田や畑が広がっている。平屋の建物の中央に事務所があり、そこを中心に2ユニットの施設は左右に分かれているが、利用者の動きを見守りやすい構造となっている。施設前にはベンチが置かれ、利用者はお陽さまの温かさや吹く風を感じながら田んぼの風景を楽しんでいる。運営者は自分の親や自分が要介護状態になっても利用できるホームを理想に掲げ、理念を日々職員と共に実践に移している。往々にして職員の研修がなおざりにされる傾向の中で、実践者研修や管理者研修を積極的に受講させ、介護支援専門員実務研修受講試験や介護福祉士国家試験に合格する職員も多い。職員の交代も少なくかつレベルが上がっている。理想のグループホームに向かってさらに前進する事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である(1)看取りの指針についての提供(2)苦情処理の掲示を大きく(3)夜間想定避難訓練については、すでに実施されており、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	3人の主たる職員によりまとめられ、その後職員全員に回覧されて検討されている。外部評価の結果についても全職員に周知され、改善点について検討されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に一度実施している。会議には小学校の校長も参加しており、小学生との交流が密になる原因となっている。時には会議を行事に合わせて行い、多くの方の参加により利用者の姿を直接見てもらうことで、グループホームの良き理解の機会となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ほとんどの家族の来訪があるのでその都度家族と話し合う機会を持ち、気軽に話しあえる雰囲気作りに努めている。現在、苦情は持ち込まれていない。利用者の毎日の表情や行事の姿を写真に撮り、コメントを添えた連続画像として職員が制作し、家族に利用者の表情豊かな様子を伝えている。年4回広報誌を発行し家族に配布している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町内会との相互交流が盛んである。近くの幼稚園や小学生との交流も多い。地産地消を取り入れており、お米は地元で生産している銘柄を指定して食している。ボランティアもたくさん来所し、利用者と一緒に交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	” ゆっくり…、のんびり…、笑顔で…”、わかりやすく覚えやすい事業所独自の理念でサービスを実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	玄関ホールと職員コーナーに掲示して、朝礼で理念の復唱を行っている。覚えやすい標語なので職員も普段より心に留めて日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、町内会との交流が盛んである。特に小学校との交流は入学生や卒業生に学校側の希望を参考にして文具など独自のお祝品を贈って喜ばれている。グループホーム側の案内も町内会回覧板はもとより小学校などを通して各家庭に伝えて、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価作業をまず3人の職員で行い、その後全職員に周知し意見を出させて、最終的に整理して取り組んでいる。前回の外部評価で指摘された件については、職員全体で取り組み改善に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一度実施している。会議には小学校の校長も参加しており、小学生との交流に力を入れる原動力になっている。会議議事録もきちんと整備されており、よりよいグループホームを目指して実践している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北斗市が”認知症の人と家族の会”をつくろうとしており、当施設も積極的に関わり連携に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年に数回写真を多く掲載した「グループホーム北陽便り」を添えて利用者の表情豊かな様子を伝えている。利用者の様子は面会時はもとより電話やメールで知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族の来訪があるのでその都度家族と積極的に話し合える機会を持ち、気軽に話しあえる雰囲気作りに努めており、意見や不満を表せるように心掛けている。現在、苦情は持ち込まれていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が少ないので馴染みの関係も続いている。ユニット間で職員の力量のバランス調整のため異動が3年間で2回あった程度である。職員が一丸となって利用者サービスに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育てるための研修に積極的に取り組んでおり、町内外の研修に参加させている。研修報告書も作成している。職員も実務者研修や管理者研修に取り組む努力しており、多くのケアマネや介護福祉士の合格者が出ている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	渡島のネットワーク交流会の勉強会に参加している。個人的に”介護支援専門委員会”や”キャラバンメイト修了者の会”に参加して同業者との交流を実践し、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の入居者の例では、本人が生活保護者であったため、包括センターと連携して本人に施設をみてもらい、検討を重ねた後で入所している。入居後も利用者の状態にきめ細やかに対応するため、当初1ヶ月、以降6ヶ月とモニタリングし、工夫しながらサービスを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は笑顔をもって積極的に利用者と接して行こうと心掛けている。利用者の思いを大切にしており、一緒に過ごしながら共に学び支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の心身の情報を”私の姿と気持ちシート”に記載し、誰でもわかるようにしている。利用者に対する記録を大事にし、新たな発見につなげて、ケアプランに反映させている。得た情報は職員に周知し、一人ひとりの思いや意向を組み、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時は1ヶ月後にケアプランを作成している。その後は担当者を決めてアセスメントし、ユニット会議で職員全員で検討し、ケアプランをまとめて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入所時は1ヶ月でモニタリングし、その後介護計画の見直しも6ヶ月毎に行っている。家族の意向や状況の変化により随時見直しを行い、きめ細かに作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を取り入れ、外出・買物・受診対応など様々に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間毎にかかりつけ医が往診に来ており、緊急な対応にも対処してくれている。皮膚科は3週間に1回、歯科も要請次第往診に来てもらっている。家族の事情により他の医院、病院にも送迎・受診している。適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今のところ対象者はいないが、ターミナルケアに向けて”看取り指針”を作成しており、ホスピスをイメージして実践に向けて取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者のペースを大切にすることを基本とし、穏やかに優しく対応しており、プライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として10時にラジオ体操をしているが、基本的に一人ひとりの個性と体調に合わせ、その人らしい生活が送れるように支援している。散歩や、食事の前後のお手伝いなど一人ひとりのペースを大切にして、楽しく暮らせるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はできるだけ地元のもの（地産地消）を心掛けている。利用者の誕生会や各種行事、外出時の外食などを通して食事を楽しむ工夫をしている。職員は一人ひとりの能力に合わせて、食事の準備、後片付けを一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日の間で毎日できるようにしている。1日3人、週2回は入浴してもらうようにしている。体調の衰えからくる入浴が少しでも楽になるようにと、リフト式バス（風呂）の導入を計画しており、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラオケで歌ったり踊ったりする利用者が多く、賑やかである。花や野菜の花壇を愛でる楽しみも提供している。一人ひとりに合った役割や楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設自体が田園風景の広がる環境豊かな所にあるので、施設前のベンチでゆったり穏やかに過ごすことができる。利用者個々に散歩などの対応している。秋の”リンゴ狩り”など各種行事を企画して、利用者が楽しめるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に入ると内鍵をかける利用者もいるが、職員が鍵をかけることはない。日中は玄関に鍵をかけていないが、防犯上夜間（21時～翌朝6時頃まで）は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と一緒に年2回避難訓練を行っている。夜間想定訓練や消火器を使った訓練も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量については個々に極端な偏りがないように、一日を通じて必要摂取量(800~1,000cc以上)が確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はゆったりとしており、明るく自然の温もりが溢れている。手作りの飾り物などがバランス良く配置されており、居心地よく過ごせるような工夫がなされている。清潔が保たれており不快な臭いや音は感じない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や生活用品があり、居心地良く過ごせるようになっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。